

文芸 さくらがわ

俳句

〔天和俳句会〕

桜茶や湯気円やかに祝の膳 安達 幸子
 クラス会訛も跳んで花の宿 岩渕のぶ子
 節分や孫にもらいし鬼の面 田中はつい
 行く雲をながめ筑波嶺春ささず 代田 とし

短歌

〔花の室 木崎集〕

ばら色の雲の花びら散りばめて人なきごとき
 地平の夕日 塚田 沙玲
 居心地のよい場所見つけ横たわる〈大福〉の
 暮らしそれでよいのだ 石浜今日子
 淡雪がひらひら舞い散る街並みに足伸ばす雖
 あちらもこちらも 大久保まさ子
 亡き父の遺品の着物は袖あわず遺影の前にし
 ばし掛けおく 高昌
 藍の香のほのかに匂ふ紺緋まとひて泣きたる
 夜なべの土間に 塩谷 明子

悠々と里山の空に輪をめぐり夕陽に染まる鳶
 の笛の音 鈴木 とみ

降る雪に店舗を閉ざすひなの街ほんのり灯る
 土蔵の雛たち 塚本 幸子

天よりの便り乗せくる花びらは秒速五センチ
 手のひらの上 西岡 和子

雛人形訪ね歩める人らみな若やぎてをりしぐ
 るる町に 野村 幸男

とり・ぶた・うし二音で呼ばれるあなたらの
 命を食めるわれらも二音 深谷 快子

〔岩瀬短歌会〕

両の掌に水を掬ひる清しさよ術後二十日目の
 朝の洗面 萩原きしの

梅干に助けを借りて粥を食む女正月風邪に臥
 したり 石田 守子

白々と霜抱く草の小ささを時折揺らし風は戯
 る 古賀 澄

所在なく外の面めぐればささ鳴きをききとど
 めたり正月二日 瀧井 幸子

クレーンにて忽ち組みたる三階建隣家の工事
 始まる良き日 山田しげの

原木にみでそむなめこ凍る夜を落葉かづきて
 ひそひそ育つ 広沢日出子

福寿草松の傍えに黄を見せて春を告げなん梅
 もボツリと 飯田 良江

〔岩瀬秋歌会〕

残雪のまだらなる畑にかすかゆれ春の陽に映
 ゆ麦の青いろ 大関 節子

新しき年に光をささやかな歌つなぎゆく幸を
 この目に 安達 悦子

しもがれて哀れをさそう柚子の実は収穫する人
 もなく根方に転びぬ 安達すみ子

あたらしき年を迎へしわが命新芽に願ふ花の
 姿を 角田 玉枝

大雪に炬燵に老いのリハビリと小さき折鶴指
 より羽ばたく 坪井ゆき子

畑より掘りてきたりし大根の煮付けの甘き香
 厨にただよふ 長谷川玲子

見上ぐれば山の峰々ほんのりと紅差せる如彩
 ひ初め見ゆ 石川 喜代

〔一般投稿〕

初春の朝日に匂う一輪は薄紅色の愛しい梅花
 鈴木 省一

広報 さくらがわ 有料広告 募集中!

- サイズ 1枠45mm×85mm、2枠45mm×172mm
- 掲載料 (月額) 1枠10,000円、2枠20,000円
 ※連続掲載で割引制度があります。

■問合先 秘書広報課 ☎58-5111・75-3111、内線1268

古橋伸夫税理士事務所

～お客さまに 豊かさと繁栄を～

桜川市真壁町桜井765-2

TEL 0296-54-1540

Homepage <http://www.furuhashikaikei.com>